昭和62年度厚生省心身障害研究
「家庭保健と小児の成長・発達に関する総合的研究」

吃音幼児の母親の子どもとの相互交渉に関する研究
― 母子自由遊び場面の機能的分析 ―
（分担研究：相互作用と乳幼児の心理行動発達に関する基礎的研究）

若 葉 陽 子 *

要約 吃音幼児の母親の子どもとの相互交渉特性を明らかにするため、母親自由遊び場面30分間のビデオ録画について、昨年度行った不適切行動の分析にひき続き、母親の行動の機能的分析を行い、対比群である正常児の母親と比較した。この結果、子どもに対する母親の働きかけは、吃音児母親群の方が少ないこと、無反応、拒否的反応が吃音児の母親に生起しやすい傾向があり、受容的反応は正常児の母親に生起しやすい傾向があるなどの結果が得られた。

見出し語：吃音児　男児　母親　相互交渉特性

研究目的　子どもとの相互交渉場面における吃音児の母親の相互交渉特性を明らかにする。

研究方法　①対象者：発吃後４カ月以内の吃音男児（４才未満）で検査・治療歴のないもの５名の母親、吃音幼児と年齢を同一にする正常男児５名の母親。吃音幼児には言語検査の結果、いずれも吃音症状が認められ、母親も吃音症状があることを認めたものを選んだ。両群とも、出産時の障害がなく、出生後の身体発達，言語発達に問題がなく、器質的障害や知的障害が認められないことを条件とした。母親は、面接の結果、子どもに関する情報提供が問題なく行えるものを選んだ。対象者は表１の通りである。
②記録方法：東京学芸大学特殊教育研究施設内の遊戯室に母子を入室させ、観察することは知らせずに、インストラクターが「子どもさんが、この建物によく慣れるよう室内の遊具を使って自由に遊ばせて下さい。３０分位遊んで慣れた頃、遊びの様子をみさせて頂きます」と指示し、３０分間自由に遊ばせる。隣接した観察室に設置されたビデオ録画記録装置を操作し、母子の相互交渉状況を録画記録する。遊戯室内の隠蔽ボックス内に２台のカメラが設置されており、観察室内での遠隔操作により、２台のカメラは同時に同一地点に焦点を合わせることが出来、また、被写体の動きを高速で追尾することが出来るので、母子の行動をもらさず記録出来る。

表１　対　象　者

吃　音　児		
母親の年齢と学歴	観察時年齢	発吃年齢
A 33歳、短大卒	２歳11ケ月	2歳10ケ月
B 31歳、専門学校卒	３歳 1ケ月	3歳 0ケ月
C 27歳、高校卒	３歳 2ケ月	3歳 1ケ月
D 30歳、大学卒	３歳 5ケ月	3歳 1ケ月
E 33歳、中学卒	３歳 7ケ月	3歳 5ケ月
正　常　児		
母親の年齢と学歴	観察時年齢	
F 30歳、専門学校卒	２歳11ケ月	
G 30歳、大学卒	３歳 1ケ月	
H 32歳、短大卒	３歳 2ケ月	
I 31歳、高校卒	３歳 5ケ月	
J 37歳、大学卒	３歳 7ケ月	

＊東京学芸大学特殊教育研究施設（The Research Institute for the Education of Exceptional Children, Tokyo Gakugei Univ.）

③分析方法：機能的分析を行うために、機能分類の項目を定め、ビデオ録画をくり返し視聴しながら各項目の該当行動の生起頻度を記録した。項目は働きかけ（伝達，質問，直接的勧誘，間接的勧誘）と反応（受容的反応，確認，無反応，否定的反応，拒否的反応）の２種に大別した。
④分析作業の一致度：分析作業の一致度は、78％であった。

結　果

得られた結果の主要点は次の通りである。
①子どもへの働きかけの頻度は、正常児の母親に比べ少ない。
②子どもにたいする反応については、無反応、拒否的反応を生起しやすい傾向があり、一方、正常児の母親に於いては、受容的反応を生起しやすい傾向がある。
③働らきかけの総頻度と子どもの労らきかけの総頻度との間に相関が認められる。
④働らきかけの総頻度と、受容的反応の頻度との間に相関が認められる。

考　察

従来、吃音児の母子関係に関して、母親の子どもに対する態度に問題があることが指摘されており、Moncur（１９５２）は、過保護や要求水準の高さ、批判的、支配的傾向をＫinstler（１９６１）は、内面的拒否、外面的拒否傾向があることを示している。今回の結果では、母親の態度という内面化された客観視に困難を伴う側面ではなく、具体的な子どもとの相互交渉の場面で問題があることが示された。この結果は具体的な行動の水準で、母親指導の資料として利用出来る点で有用と考えられる。また、母親の子どもへの働らきかけが多いほど、子どもから母親への働きかけが多く、母親自身の受容的反応も多いことが示され、これは、母親の子どもへの積極的な関心（働きかけの多さ）を深めることにより、子どもの行動をより活性化し、母親自身の子どもの受容を促進することを示唆していると考えられる。

吃音は、早ければ、５．６才時には、漠然とした意識化が始まり、９才頃には、明らかな心理的影響が生じる（若葉，１９７９，１９８６）。このような進展課程からみて、幼児期早期の吃音児の母親指導は今後重要視される必要があるが、昨年度の本研究で得られた母親のとっている不適切行動の内容とともに、今回の結果を早期母親指導のための具体的方略立案のための資料としたいと考える。また、不適切行動は、子どもの欲求や心理的状態の感受や洞察の不十分さと関連していると予想されるが、不適切行動生起の状況について、母子相互の行動文脈のより詳細な観察を行うことにより、母親の行動改善に役立つきめ細かな指導の手ががりを得たいと考えている。

本研究の対象者は数が少く、得られた結果を一般化するには、対象者を増やして検証を重ねる必要がある。

文　献

Kinstler, D. B. １９６１ Covert and overt maternal rejection in stuttering. Journal of Speech and Hearing Disorders, 26, 2, 145－155.
Moncur, J. P. １９５２ Parental domination in stuttering. Journal of Speech and Hearing Disorders, １７ １５５－１６５.
若葉陽子 １９７９ 集団遊戯療法による幼児吃音の治癒過程 東京学芸大学特殊教育研究施設報告 ２８.
若葉陽子 １９８６a 吃音児の言語治療教育. 平井久他編 言語習得 岩崎学術出版. 152 －171.
若葉陽子 １９８６b 吃音児の母親指導：－Filial therapy の適用－，音声言語医学 ２７，１，118 －119 .
Wakaba Y. １９８６c Resarch on the causes of stuttering. Logopedics and Phoniatrics: Issues for future reseach ３１０－３１１.
若葉陽子 １９８７a 吃音児の母子相互交渉に関する研究－予備的観察－，東京学芸大学特殊教育研究施設研究報告、３６、29－37.

若葉陽子　１９８７b　吃音児の母親の子どもとの相互交渉行動特性に関する研究　厚生省心身障害研究「家庭保健と小児の成長・発達に関する総合的研究」研究班　家庭保健と小児の成長発達に関する総合的研究報告書　昭和６１年度　110 －113.

Abstract

A study on behavior characteristic of mothers of young stuttering children in mother-child interaction
-----Functional analysis of the behavior in free play situation-----

Yoko Y. Wakaba

Functional analysis of video tape recordings of thirty minutes free play situations by mothers and young stuttering children was conducted to clarify characteristic of mothers' behavior in mutual interaction with their children. The behavior of the mothers was compared with those of mothers of normal children.

The main results were as follows;

(1) Frequency of active action to children in mothers of stuttering children was fewer than in those of normal children.

(2) Mothers of stuttering children had a tendency to present no response or rejective response to their children, otherwise mothers of normal children had a tendency to show acceptable response to their children.

Those results gave useful information regarding therapy with mothers of young stuttering children.

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約 吃音幼児の母親の子どもとの相互交渉特性を明らかにするため、母親自由遊び場面30分間のビデオ録画について、昨年度行った不適切行動の分析にひき続き、母親の行動の機能的分析を行い、対比群である正常児の母親と比較した。この結果、子どもに対する母親の働きかけは、吃音児母親群の方が少ないこと、無反応、拒否的反応が吃音児の母親に生起しやすい傾向があり、受容的反応は正常児の母親に生起しやすい傾向があるなどの結果が得られた。